

平成15年度 施策評価表

○総合計画における位置付け等

平成15年 5月30日記入

基本目標	Ⅲ ▼ 躍動し 魅力あふれる交流拠点都市をめざして	施策コード	31420
政策名 (章)	第1章 立地特性を生かした産業の振興をめざします	評価担当課	経済部 ▼
基本施策名 (節名)	第4節 商業・サービス業の集積		商業観光課
施策名	にぎわいのある商店街づくりの支援	課長名	梅沢道雄

1 施策の概要・目的

個性的で魅力的な商店街の形成をめざし、商店街運営・事業活動の充実を促進するなど、にぎわいのある商店街づくりを支援する。
 ・イベント事業、情報発信事業、空き店舗対策事業など、商店街の活性化を支援する。
 ・商店街フォーラムの開催による商店街リーダーの養成など、商店街団体の組織強化や運営を支援する。

2 施策の現状

・イベント事業や情報発信事業など、商店街が自主的・個性的に取り組む「商店街ステップアップ事業」の支援
 ・空き店舗を有効に活用し、商店街の活性化を図るため、商店街が実施する「空き店舗等対策事業」の支援
 ・商店街の活性化を推進するためのアドバイザーの派遣
 ・商店街フォーラムの開催による商店街リーダーの養成など

3 総事業費及び人員

(1) 施策に要している総事業費

74,229 千円……構成事務事業全体の事業費合計(人件費含む)

(2) 市民1人当りの事業費

121 円/人……人口は、**61.6** 万人とした。(平成15年4月1日現在人口)

(3) 全施策中の順位(事業費)

この施策の市民一人当たり事業費は、全123施策のうち、第 **85** 番目です。

(4) 施策に要している人員

0.70 人……構成事務事業全体の人員合計

4 評価指標

指標	指標名および指標式	指標の意図	現状値と目標値			目標
			現状	目標	達成度	目標年度
指標1	ステップアップ事業の実施状況 H12 H13 H14 5件 6件 13件	活性化策として実施した事業数	現状	13	0 50 100	目標年度
			目標	各年15		達成度 87%
指標2	空き店舗活用事業の支援状況 H12 H13 H14 3件 5件 6件	商店会が取り組んだ空き店舗対策の事業数	現状	6	0 50 100	目標年度
			目標	各年10		達成度 60%
指標3			現状		0 50 100	目標年度
			目標			達成度 %

5 必要性…市民ニーズに合っているか、行政需要の変化に対応しているか

市民の豊かな暮らしを支え、活力ある地域社会を形成するうえで、にぎわいのある商店街づくりは大きな役割を担っている。

6 有効性…期待される効果があがっているか

「商店街ステップアップ事業」などによる継続的なソフト事業の実施により、来街者の増加を促し、販売額の増加につながることを期待しているが、経済情勢や消費者ニーズの多様化など様々な要因から、数値的には十分な効果があがっているとは言い難い状況にある。

7 効率性…費用対効果が優れているか、もっと大きな効果が得られるものはないか

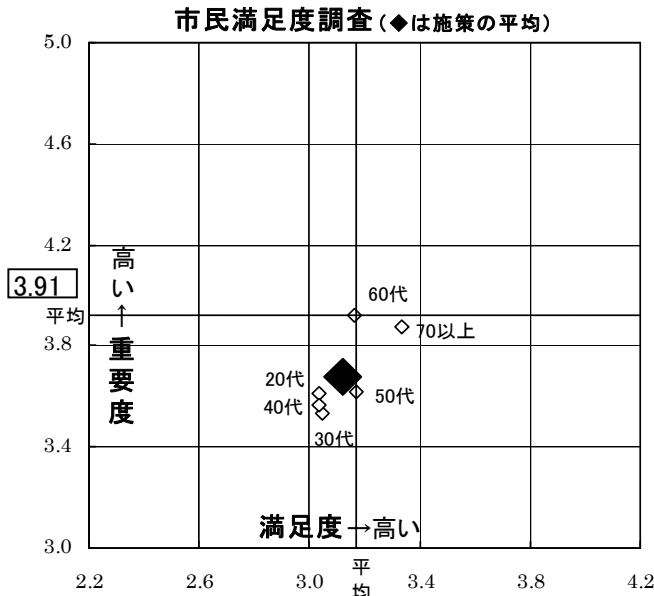
活動主体となる商店会の創意と熱意ある取組みに対して、側面的な支援を行っている。

8 市民満足度調査結果からの分析(平成15年度調査)

- ◆この施策の満足度は、3.118で、調査した51施策の中で33番目です。
- ◆この施策の重要度は、3.681で、調査した51施策の中で40番目です。
- ◆この施策の改善要望度は、0.398で、調査した51施策の中で32番目です。

◇年齢別にみると、満足度は70歳以上で最も高く、40歳代以下で低くなっています。重要度は60歳代以上で高く、50歳代以下と差がみられます。

市民満足度調査は、基本施策51項目(節)について調査しています。したがって、上位の基本施策が同じ場合は同じ内容となっています。(「〇総合計画における位置付け等」参照)

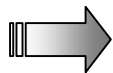


9 課題…施策を実現するにあたり、課題となっていること等

長引く景気低迷に加え、消費者ニーズの多様化や価値観・ライフスタイルの変化、モータリゼーションの進展など社会経済環境の変化により、中小小売店舗の減少や駅前等の既存商業地の伸び悩みなど、本市の商業を取り巻く環境は大変厳しい状況にある。
また、経営者の高齢化や後継者問題についても、商業の活性化の上で重要な課題となっている。

10 今後の方向性(一次評価)

今後の方向
<input checked="" type="checkbox"/> 拡充する
<input type="checkbox"/> 現状維持する
<input type="checkbox"/> 見直し



説明及び具体的内容

経済情勢や消費者ニーズの多様化など様々な要因から、数値的には十分な効果があがっているとは言い難い状況にある。これまで実施してきた施策は、商店街の環境整備などのハード事業を中心としてきたが、今後は商店街活性化のため、地域の特性や実態に即したソフト事業を中心とした取組みを重点的に進めていきたい。エコマネー(地域通貨)やコミュニティビジネスなど商店街のみならず、地域住民と一体となった活性化事業の展開が必要と考える。

11 2次評価

説明
<input type="checkbox"/> A
<input type="checkbox"/> B
<input checked="" type="checkbox"/> C

活力ある商店街の形成に向けて、市としての支援のあり方の再構築を行うこと。

12 外部意見

説明

地域特性や消費者ニーズに適合した取組みを、商店街が主体となって進めるべきである。

施策名 にぎわいのある商店街づくりの支援

施策コード 31420

構成事務事業一覧

事務事業名	担当課	評価年度	決算額 (千円)	人員 (人)	評価の概要								施策中の優先順位	
					総合評価	達成度	必要性	効率性	代替性	満足度	有効性	公平性		今後の進め方
商業実態調査事業	商業観光課	14	6,775	0.05	A	A	A	A	A	B	A	/	継続	3
商店街近代化事業補助金	商業観光課	15	36,200	0.30	A	B	A	B	/	/	B	A	継続	2
商業団体育成費	商業観光課	15	3,607	0.10	B	B	B	B	/	/	B	B	廃止	4
商店街振興支援事業	商業観光課	14	27,647	0.25	A	A	A	B	B	A	A	/	継続	1

合計 4 事務事業 74,229 0.7 千円 人 平成14年度評価:達成度、必要性、効率性、有効性、代替性、満足度 平成15年度評価:達成度、必要性、効率性、有効性、公平性